

梅林小学校の梅の木に掛けてある札の短歌や俳句

東風吹かば においおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春を忘るな

菅原 道真

おおぞらは 梅のにおい かすみつつ くもりもはてぬ 春の夜の月

藤原 定家

君ならで誰にか見せむ 梅の花 色をも香をも知る人ぞ知る

紀 友則

梅が香に むかをとえば 春の月 こたえぬかげぞ そでにうつれる

藤原 家隆

梅一輪 一輪ほどの 暖かさ

嵐雪

白梅の りりしきりに 帰りけり

横光 利一

枝ごとに 海あり 梅の海なりし

はがくにこ

梅の奥に 誰やら住んで かすかな灯

夏目 漱石

梅が香に のつと日の出る 山路かな

芭蕉

梅の木に なお宿り木や 梅の花

芭蕉

山里は 万歳おそし 梅の花

芭蕉

春もやや けしきととのふ 月と梅

芭蕉

まづ祝え 梅を心の 冬ごもり

芭蕉

紅梅や 見ぬ恋つくる 玉すだれ

宗因

さればここに 談林の木あり 梅の花

長谷川素~~新~~

おのづから 梅林のなか 谷をなし

藤田 湘子

紅梅や 影にも音の つきまとふ

清崎 敏郎

奥まりし 薄紅梅に 惹かれゆく

高浜 虚子

紅梅の 紅の通える 幹ならん

石原 八束

人影も 雪間十歩の 紅梅花

富安 風生

紅梅と 故人の如く 対しけり

中 勘助

紅梅の 一輪はしる 朝の枝

松野加寿女

暮れそめて にはかに暮れぬ 梅林
我れ去れば 水も寂しや 谷の梅
紅梅に 干しておくなり 洗ひ猫
はなみちて うす紅梅と なりにけり

日野 草城
渡辺 水巴
一茶
暁台